

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>運営理念の中に「地域社会と共に理想的な介護サービスを提供することを目標とする」と掲げ、実践している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>ミーティング時に基本理念、運営方針を唱和し、自己啓発に努め、日々の介護サービスが理念や方針に沿った対応をしているか、反省、点検し、確実な実践を目指している。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>玄関に理念、運営方針を掲示し、来訪者に見ていただいている。本人や家族には入居契約の際に説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>開設時から自治会に加入し、平成18年からホームの行事の様子を知っていただくために、「ふぁみりー菰田だより」を2か月に1回発行し、15町内の回覧に入れさせていただいている。夏祭りや年末の餅つき行事には近隣のお年よりや子供会の参加もある。盆踊り、花火大会、山笠へも参加している。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会の招待により、敬老会に出席させていただいたり、地域の祭りに参加している。地域の子供会の廃品回収も出来る限りの協力をしている。今年の皆既日食の日には地域の方と、ホームのスタッフ、利用者がそろって、空を眺める場面があった。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に至るまでに利用者とその家族に対し、十分な説明を行い、理解していただいた上で、契約や解約の書面に署名捺印していただいている。その際は、書面内容を再度、説明、確認している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族懇談会時に家族から、利用者が職員に直接訴えることが出来ない訴え等がないかを聞くように心掛けている。また、日々の利用者との会話の中で意見、不満、苦情に通じる内容の話があれば、職員に周知し、統一した対応をし、早期の問題解決を図っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に担当職員が、家族に対し「ふぁみりー通信」を送り、日々の生活状態の報告をしている。健康状態については変化ある度に連絡を行っている。金銭の預かりについては毎週2回2名の職員が間違いがないように、確認を行い、毎月、明細書と領収書を送り、了解を得ている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情相談窓口、責任者を明記している。家族懇談会で意見、要望をうかがう時間を設けている。また面会時には必ず、家族と顔を合わせ、直接話す機会を多くし、意見が言いやすい関係作りを心がけている。玄関には「ご意見箱」を置いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの最後の議事の中で職員に対し、遠慮のない意見等を求めている。また、日々の介護現場においても、細かな所で意見、提案が出来るよう、申し送りの時間を利用して、意見を言える関係作りを心がけている。ひとりの些細な意見でも、ミーティングで検討し、反映できるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の緊急性のある受診、家族の緊急性のある事情等について、職員が不足する場合は、その事態が起こった段階で、早急に、勤務日の交替や、時間外勤務により職員の確保に努めている。緊急時には緊急連絡網により、いつでも人員が集められるようにしくみが出来ている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間個人的理由により、数名の離職者があり、また、同系列グループホーム間の異動があった。運営者は頻回に社会保険労務士と連絡をとり、離職者を最小限に止める様努力をしている。運営者、管理者は職員個人と話す時間を作り、また、職員親睦会に参加してコミュニケーションに努めている。職員交代の際は十分な引き継ぎを行い利用者の心情に影響が大きくなるよう配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用は基本、ヘルパー2級資格所持者であり、面接時に「人柄」「やる気」「利用者に対する思いやり」等を聞き取り、考慮している。性別、年齢にはこだわらない。常に、社会保険労務士と連絡を取り、労働基準法に沿った適切な採用事務の手続きをとって、法の順守に努めている。年1回～2回の定期健康診断も確実にを行い、職員の健康管理も怠らない。休憩時間も現場を離れ、ゆっくと休める体制を作っている。	
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	年2回研修計画に入れて、外部から講師を招き、職員全員を対象に事業所内研修を実施している。外部研修にもすすんで参加し、得られた知識はミーティング時に発表し、職員の受けた感想等を研修報告として提出してもらい、啓発に努めている。関係マニュアルは整備し、職員がいつでも閲覧できるようにしてある。	
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会に所属し、定期的な研修会に職員が交替で参加し、職員の「やる気」を育成している。また、外部からの研修会にも参加できるよう、シフトの調整をしている。運営者、管理者は日ごろから、職員に資格取得をすすめ、資格取得に必要なことへの配慮をし、助言も行っている。職員が安心して、それに取り組めるよう、日頃から話をしやすい雰囲気作りに努めている。	
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	所属しているグループホーム協議会の主催する研修会に参加し、その際に同業者と会話し、交流を深めている。特に地域内の福祉施設との交流は盛んに行われ、お互いに運営推進会議に参加し、専門的な助言、意見をいただいている。職員間交流を兼ねた1週間程度の業務実習の計画もある。	
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、日頃から管理者を通じて、管理者や職員の健康状態、勤務状態等を聞き、ストレスの軽減、働きやすい環境作りへの助言をする。出来る限り、職員個々とも顔を合せ、直接話す機会を作っている。職員親睦会にも進んで参加し、職員の本音が聞けるようにコミュニケーションに努めている。	
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、日頃から管理者を通じて、職員個々の仕事ぶりを聞き、実績、勤務状況を把握するようにしている。実績や勤務状況は定期昇給に反映して、職員のモチベーションを上げるように考慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談の時点で家族から詳細な情報を聞き取り、間違っただ判断をしないように、必ず2名の職員で、家族立ち会いのもと、利用者本人と面接する。時間をかけ、発する言葉の一つ一つの中にある困りごと、不安なこと、要望等を汲み取り、家族に確認している。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族としての困りごとや不安なこと、要望は利用者本人のそれとは違うことを充分理解した上で、聞き取りを行う。何でも相談できる事業所となるように、常に家族の立場に立って、話を伺うように努めている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点の本人の精神的、身体的状態をよく観察し、家族の気持ちも充分考慮して上で、現在までに経験してきた良かった対応なども、参考にしながら、事業所として出来ること、出来ないことの説明を行い、適切な対応をしている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があったときは必ず、本人が見学をして、納得した上で、入居していただくようにしている。不安が残る場合は家族付添のもと、数回の見学、体験入居も進めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの利点である家庭に近い環境の中で生活全般を共にすることで家族のように信頼関係を築き、生きがいを持てるように支援している。利用者の立場に立ち、寄り添うことで、馴染みの関係を作り、ほとんどの利用者が入居して3カ月後には、安心した、明るい笑顔を見せるようになっている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者を支えていく存在としてとらえ、利用者の変化を詳しくお知らせすることによって、職員と一緒に利用者生きがいを持って生活できるように連絡、報告を密に行っている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後の利用者の状態については、定期的に、担当より「ふぁみりー通信」にて報告している。また、面会時に管理者や担当が直接、家族に対し、口頭で報告を行い、家族と本人の絆が深まるよう、配慮している。特に家族への思いについての言動については必ず伝えるようにしている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には友人や知人の面会が多い方があり、その時は職員が声をかけ、次回の面会や同伴の外出をお願いすることもある。また、ゆっくりお話しできるように居室の設定も行い、お茶を提供するなどして、話しやすい空間作りをしている。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の日課の中で利用者皆さんで体操をしたり、レクをする時間を設け、一緒に話しをするようにしている。特に昔の話などは喜ばれます。また、利用者個々の誕生日にはプレゼントを渡していただいたり、一緒にケーキを食べ、お祝をして交流するようになっている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむなく退去された利用者については移動先の病院、施設、自宅を訪問して様子伺いをしている。同時に家族との交流も絶やさないために、定期的に電話連絡をして相談等があれば、受け付けている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話の中で思いや希望の部分があれば記録し、叶えるように努めている。困難な方については、状態や表情、行動をよく観察したり、家族からの聞き取りで判断してその把握に努めている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しく生活歴を伺うようにしている。合わせて、性格や人柄についても、情報を集め、その把握に努めている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時には生活の流れや出来ること、出来ないことを詳しく、聞き取り、入居しても生活の仕方に大きな変動がないようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ミーティングにおいて担当者が課題をあげ、職員全員で検討している。やむを得ず、不参加の職員には事前に意見をきき全員の意見を反映するように心掛けている。家族には面会時に話しを聞いている。家族懇談会においても家族や本人の意見を伺い、追加検討できるようにしている。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本3か月に1度介護計画の見直しを行いますが、退院後や状態の急激な変化があったときは、速やかに担当者会議を開催し、家族の意見等も聞いて状態に合った介護計画を作るようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の介護記録用紙に1日の行動や変化、話したことなどを詳細に記録するようにしている。また、記録とは別に連絡ノートを用意し、職員の小さな気づきも記入して、情報の共有に努め、実践している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の置かれた状態に合わせ、病院受診の付添、介助や事務的手続きを行っている。入院に際しても、病院との連携を図り、事業所としてできる限りの援助を行い、早期の退院に向けた支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域内の施設行事の招かれ、参加したり、運動会に参加させて頂くなどの協力体制は出来ている。	
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態に応じ、都度その必要性を検討はしますが、現在のところ、本人や家族からの要望もなく、必要性のある利用者はおりません。	
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要となったときのために、権利擁護の研修に参加し、知識を習得、職員に周知を図っている。運営推進会議を通じて包括支援センターとの連絡体制は出来ており、必要時にはすぐに対応できる。	
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々に希望の主治医を持ち毎週1回の往診、1回の看護師による健康チェックをしていただいている。利用者の状態に変化があれば、すぐに対応できるように、事業所と主治医の関係も密にして、連絡体制を整えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状が著しい方については、主治医と相談して、精神科を受診し、専門的な指導を受けて症状の軽減に努めている。現在、1名の利用者が職員付添のもと、通院している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週月曜日に主治医の医院所属の看護師が訪問し、全利用者の健康チェックを行い、日常の健康管理をしていただいている。異常がある時はすぐに対応できるようになっている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	頻回に入院先の病院を訪ね、ソーシャルワーカー、ドクター、看護師より状態を聞き取り、家族の要望も聞きながら、早期に退院できるように努力している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重篤な状態になったときや、終末期に入ったときのために事業所としての対応方針を作っています。それは、入居契約時に、本人、家族に説明をして了解を得ている。重度化、終末期に入った方に対しては、家族と頻回に話し合う機会を設け、本人、家族の納得のいく対応をしている。主治医との連携も密にしている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が重篤な状態になったときや、終末期に入ったときは重度化や終末期に向けた方針に従い、主治医からの意見を聞きながら、家族へ今後の対応について説明を行っている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居場所へ移り住むことになった場合は事前に異動先の病院、施設の担当者で連絡調整を図り、情報交換をした上で、異動によるダメージが最小限となり、スムーズな異動ができるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の取り扱いについては、研修等で知識を得、職員に周知するようにしている。介護現場においても、トイレ誘導時の声かけ、トイレ使用時のカーテンの使用等の利用者のプライバシーに配慮した対応に気をつけている。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	どんな小さなことでも、本人の気持ちを伺い、本人が自分の意思で決めていただくようにしている。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は概ね決めています。起床時間、食事時間、レクリエーションの内容等は個人の状態、希望にあわせて柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容については近隣のお店を利用させていただいているが、都度、本人に聞いて、了解を得た上で利用しています。服装についてもその都度、希望を伺って、対応している。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の認知症の重度化、身体機能の重篤化が著しく、一緒に食事の準備、片付けに関わるのが難しくなっているが、少しでも可能な方については、職員が付き添い、していただいている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好や摂取量については入居時に詳しく伺い、希望に沿うようにしている。その他、特別に特別な食事内容を希望する場合も叶えられるよう柔軟な対応をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	衣類の汚染防止のために、尿とりパットを使用する利用者が多くなりましたが、利用者の排尿パターンを知り、随時の排泄介助を行って失敗を防止している。尿意、便意のある方については、その時に応じて速やかに、さりげなく、誘導し、必要あれば介助し、気持ちよい排泄ができるようにしている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は出来るだけ、基本1週間に3回は入浴していただくようになっているが、本人が希望すれば、いつでも入浴できる体制はできている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の好みの室温に合わせてエアコンで適度な状態を作り、ゆっくり休めるようにしている。ねまき、寝具についても利用者個々に合わせて利用していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の生活歴や能力等を考慮に入れながら、楽しみとすること、気晴らしとなることを見極め、本人の希望を重視して、適切な支援をしている。その際に職員は出来たこと、して下さったことに、激励の言葉や、謝意を言葉に表すように心がけている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活の身の回りの物品購入のために預かっている金銭とは別に、本人が希望すれば、ある程度の金銭は本人管理でもつことが出来る。買い物の際も自分で支払いをしていただくこともある。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態を見ながら、天気の良い日には散策、外気浴等で気分転換を図っている。また、利用者個々の要望があれば、外出、買い物にも出かけられるよう、対応している。年間4回程、お花見、ドライブを計画して、実行している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間4回程、気候の良い時期に、利用者の体力的な負担にならないよう、負担にならない距離の場所を考慮し、お花見や、ドライブをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話の取次ぎ、直接お話していただくこともできる。手紙も便箋、封筒、切手等の準備をして、書いていただき、投函する。手の不自由な方については代筆することもできる。		
66 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	朝は7時から夜8時までは施錠しないで、いつでも面会が出来るように対応している。利用者に面会があった場合は、ゆっくりと会話出来る場所を設定し、お茶を提供するなど、遠慮なく、気軽に来られる雰囲気づくりを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
67 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切の身体拘束はしていない。身体拘束の定義は職員全員が把握をしている。		
68 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝の7時から夜の8時の間は玄関の鍵はしていない。居室の鍵も本人からの希望がない限りは施錠しない。外出傾向のある利用者については、常に所在を確認し、外出の希望があれば、納得いくまで付き添うようにしている。		
69 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1日を通して、利用者だけの時間を作らないように職員を配置している。職員は、利用者のプライバシーに配慮しながら、全利用者の動きを確認、把握して、事故が起きないように気をつけて見守りを行っている。		
70 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食、徘徊などの周辺症状のある利用者については、全職員が注意を怠らず、付き添う等の対応で問題を解決するようにしている。独りの問題ある行動に他の利用者がふり回されることのないようにしている。		
71 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護現場で起こりえる事故の防止については普段から話題に上げ、啓発している。事故防止のための参考書等いつでも読むことが出来る。ひやりはっと、事故報告書は月1回のミーティングで発表し、検証し、反省して、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	介護現場で起こりえる、利用者の急変、事故についてはマニュアルを作成して、全職員が適切な対応ができるようにしてある。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については年2回火災避難訓練を実施している。地震、水害についても、緊急連絡網に従い、連絡体制はできている。近隣の皆さんには常々、何かあったら、協力をお願いする旨、口頭で依頼し、理解をいただいている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者個々の抱えるリスクについては、家族懇談時や面会時にお話しをし、事業所として出来る限りのリスク回避の対応策を説明し、協力と理解をお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の少しの変化も職員全員が把握できるように、介護記録、連絡ノートを十分に活用して、早期の対応が出来るようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、全利用者の病気や服薬の内容については周知しており、毎回の服薬準備の段階で必ず、2名の職員で内容の確認をしている。服薬介助時にも利用者の顔と薬袋上の氏名を確認し、誤薬の無いよう、2重、3重のチェックをしている。服薬拒否に対してはゼリーを使った服薬介助などの工夫をしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす悪影響については、周知しており、日ごろの運動、水分摂取、繊維を含んだ食材の利用等に留意して、対応している。排便のチェックは重要な業務としており、重篤な便秘にならないように、主治医に報告し、指示を受け、適切に対応している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回食後に職員が付き添い、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。必ず、したか、していないかのチェックを行い、忘れのないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の栄養摂取量は毎食分記録している。献立は利用者の要望を考慮しながら、職員が立て、管理栄養士の資格を持った職員にチェックしてもらいアドバイスをいただいている。利用者個々の食し方に合わせた形状で提供し、おいしく食べていただくように努めている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症が外部から入らないように、玄関に消毒剤を置き、来訪者に手指の消毒をお願いしている。流行時期にはマスクの用意もしている。感染症マニュアルを作成し全職員が統一した対応が出来るようにしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は職員がよく吟味して購入し、保管も適切にしている。厨房も職員が常に衛生管理をし、食中毒が発生しないように十分な注意をしている。衛生管理については調理用具、布巾等の消毒を毎日行い、チェックをして怠りのないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く、明るい作りになっている。職員が手作りした看板があり、季節の花やオブジェをさりげなく置いている。玄関の外には小さな花壇を作り、来訪者や利用者が季節を感じていただけるようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓はどの空間も広く作られており、明るい。毎日午前中に1回窓を開けて換気をし、空気の入替えを行っている。職員は不要な大声を出さないように心がけている。季節に合わせた行事の写真等を飾り、利用者に家庭的な心地よさを感じていただくように設営している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に全利用者が集まれるスペースがあり、ソファールをおいてゆっくり過ごせるようにしてある。畳敷きのスペースも確保し、皆で洗濯物をたたんだり、職員を交えて会話ができるようにしてある。行事の際は踊りや歌の舞台となっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
89	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

当グループホームは、開設7年になり、利用者の状態も従来のグループホームの利用者としての基準を外れるほど、重度化しています。車椅子を常時使用されている方が9名中、6名おられます。事業所としては、どのような状態になっても食事が口から摂取でき、毎日の医療的な対応の必要がないうちは、馴染みのホームで、家庭的な環境で、馴染みの利用者や、馴染みのスタッフに囲まれ、できる限りの援助をして、当グループホームで生活していただきたいと考えています。地域密着型サービス事業所として、近隣の方との交流を促進し、近隣の理容、美容のお店を利用することで、グループホームの存在を知っていただくことができました。また、近年は、近隣の中学生、子供会との交流が深まり、年1回の福祉体験学習の施設となったり、夏祭りには子供会の参加もあります。これをきっかけに、地域内の若い人たちが地域の福祉施設への理解を深めていただければ、そして、将来的には福祉社会の大きな力になってほしいと願っています。運営者と管理者はなによりも職場内の信頼関係の構築を大切にしています。信頼関係がないところに良い介護現場はないと思っています。職員がここで働いていて良かったと思い、利用者がここに住んで良かったと思えるように、これからも努力していきます。